

いいクルマづくりは「経済的な豊かさ」だけでなく、
「精神的な満足度」を優先させる
GNH(国民総幸福量)の考え方が根底に

震災で「天を恨まない」という言葉に感動

今こそ、人々に心を寄せる「ヒューマンな詩」を

2012年、新生日本が始まった。昨年3月の東日本大震災から早くも1年を迎える。人の本質は危機に際して最も明らかになるという。不安が絶えない今だからこそ、人々が心を寄せる「時代の歌」「ヒューマンな詩」がいる。ヒューマンの力が今ほど問われている時はない。20世紀の「大量生産時代」から21世紀はサービス「ヒューマンの時代」だ。

震災以来、日本人の意識、行動、思考さらに仕事観にも変化をもたらした。絆や利他の精神が浸透している。また、震災で「天を恨まない」という中学生の言葉も身に染みた。

甚大な被害を被った気仙沼市階上(はしかみ)中学校の昨年3月の卒業式、卒業生代表の答辞の内容である。

「防災教育といえば、わたしたちの階上中といわれるくらい、防災には力を入れてきました。それでも、自然の力は大きく、災害の前に、わたしたちは無力で、大切なものが容赦なく奪われていきました。悔しくて、辛くて、たまりません。……それでも、私たちは天を恨まず、助け合って生きていこうと思います。それが私たちの使命だからです。」NHK「ニュース7」(11年3月22日)が伝えた。

これはまさしく「ヒューマンな詩」といえないか。悲しみを乗り越えて前向きに向き合う15歳の彼の精神力のたくましさや純真さに敬服するばかりである。

面白い今年の自動車業界

原発、日本は世界に信用を取り戻せ

東日本大震災では自動車メーカーやサプライチェーン(供給網)も大きな被害を被った。企業が予想外の速さでサプライチェーンを復旧させたことは世界の驚きでもあり日本人の強さの象徴だろう。

ただ、福島原発問題を抱える日本は、世界の信頼を築かなければならない。日本国民や企業に加え、外国や外資系企業の信頼を取り戻す必要がある。ネットを通じて世界の人々が瞬時に意見を交わせるソーシャルの時代だからこそ、信頼を最重要視すべきだ。

そういう今年には復興と日本経済の再生、飛躍の年だ。自動車業界は、いろいろな意味で面白い年になりそうだ。日本企業には6重苦(円高、高い法人税、厳しい労働規制、温暖化ガス排出規制、外国との経済連携の遅れ、電力不足)があると多くの経営者が訴えるなかである。「ピンチはチャンス」なのだ。

次世代車の開発競争激化か

取り戻せ、競争精神、競争社会

これからのクルマは環境をコンセプト(次世代エネルギー)とした低燃費化、電動化はもちろん、スポーツカーのようなクルマ本来の持つ楽しさや、面白さ、IT化などを追求した先進的な魅力ある多様なクルマづくりが求められる時代になった。実用性とエンターテイメントを融合したコンセプトカーである。それだけに世界の自動車メーカーは提携やM&A(企業の合併、買収)の生き残りをかけた競争は激化している。

今、日本社会で競争の精神、競争社会を取り戻す必要がありそうだ。高度成長期の成功に酔いしれ、経済大国の地位に安閑としすぎ、克己勤勉と競争の精神を忘れてしまった。グローバルな時代を生き残るためには、競争を避ければ日本全体が地盤沈下していくのは必定だ。

トヨタの豊田章男社長は「トヨタをお選びいただいたお客様に幸せになっていただけた企業」、そのために必要となる『もっというクルマをつくろうよ』と今年の社内年頭挨拶で訴えた。

経済的な豊かさだけでなく、精神的な満足度を優先させるGNH(国民総幸福量)の考え方が根底にあるコメントである。

クルマ利用のメリットやクルマを通じて人生を豊かにする工夫などの情報発信を増やしていかなければならない。

今はまだどの自動車メーカーにも競争に勝ち残るチャンスはある。いろいろな意味で面白い年になりそうだとして繰り返してアピールする。